

公益社団法人青少年健康センター 2023 年度事業報告

1. 法人の基本情報

(1) 法人の概要

① 法人の目的

公益社団法人青少年健康センターは「青少年問題についての調査研究及び知識の普及啓発を行うとともに、精神的不応等青少年の行動上の問題に対し適切な相談指導を実施し、もって青少年の健全育成と公共の福祉増進に寄与すること」を目的としております。(定款第1章 第3条)

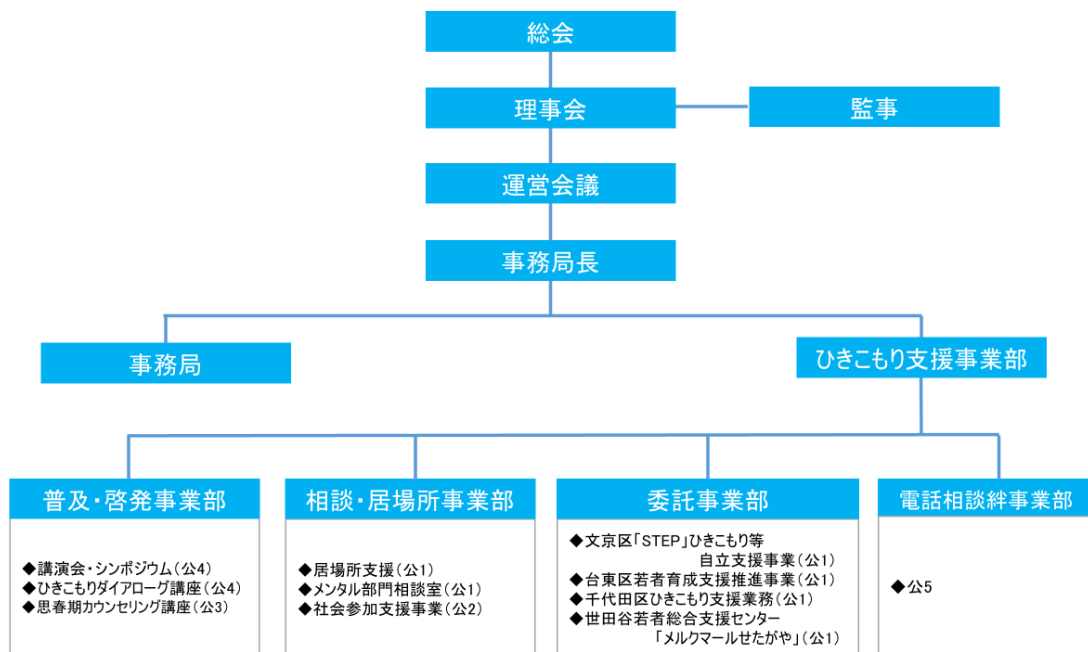
② 業務内容

当法人は、定款第1章 第3条の目的を達成するために以下の業務を行います。

- i) ひきこもり等生きづらさを抱える若者への相談・居場所支援事業(公1、公2)
- ii) ひきこもり等生きづらさを抱える若者に関する知識の普及啓発を目的とする事業(公3、公4)
- iii) 若者の自殺予防を図る無料の電話相談「電話相談 絆」事業(公5)

③ 組織図(2024/03/31)

公益社団法人青少年健康センター組織図



(2) 役員の状況

作成日:2023年7月1日

公益社団法人 青少年健康センター

2023年度 役員等名簿

役職名	氏名	職業等	備考
会長	斎藤 環	筑波大学教授	非常勤(重任)
副会長	井利由利	公益社団法人青少年健康センター 茗荷谷クラブチーフスタッフ	非常勤(重任)
理事	藤堂宗継	医療法人社団雄心会山崎病院	非常勤(重任)
	岩佐壽夫	家庭ケースワーク研究所 所長	非常勤(重任)
	笹原信一郎	筑波大学 准教授	非常勤(重任)
	芳賀雅子	働けない子どものお金を考える会	非常勤(重任)
	伊藤亜矢子	聖学院大学 教授	非常勤(重任)
監事	時盛昌幸	公益社団法人青少年健康センター 事務局長	非常勤(重任)
	菊池 章	医療法人白翔会浦和神経サナトリウム 院長	非常勤(重任)
	佐藤 容子	横浜あかり法律事務所	非常勤(重任)
参与	中島聡美	武蔵野大学 教授	
名誉会長	齋藤友紀雄	公益社団法人青少年健康センター 前会長	
名誉顧問	関川俊男	公益社団法人青少年健康センター 前副会長	

2. 事業の説明

2023年度(自2023年4月1日至2024年3月31日)の事業報告を下記の通りご報告いたします。

(1) 法人事業

① 青少年健康センター 理事会開催

i) 第1回理事会開催

2023年5月20日(土)17時00分より青少年健康センター三軒町ビル205号室にて2023年度第1回理事会が開催され、当日は会場・オンライン両面にて行われました。総理事9名のうち理事7名、監事2名のご出席により、過半数が認められたため、理事会が成立いたしました。

当日議題として「第1号議案 2023年度定時総会開催について」、「第2号議案 2022年度決算・事業報告について」、「第3号議案 理事及び監事並びに参与の任期満了に伴う改選に関する件」が挙げられ、それぞれの書類を提示し、詳細を説明したところ、満場異議なく承認可決されました。報告事項として「会長及び副会長の職務執行報告」が行われました。

ii) 第2回理事会開催

2024年3月16日(土)17時00分より青少年健康センター三軒町ビル205号室にて2023年度第2回理事会が開催され、当日は会場・オンライン両面にて行われました。総理事8名のうち理事7名、監事2名のご出席により、過半数が認められたため、理事会が成立いたしました。

当日議題として「第1号議案 2024年度事業計画・収支予算について」、が挙げられ、書類を提示し、詳細を説明したところ、満場異議なく承認可決されました。報告事項として「世田谷職員の賃金規定の改定について」、「会長及び副会長の職務執行報告」が行われました。

iii) 臨時理事会開催

2023年6月24日(土)午後5時45分より青少年健康センター三軒町ビル203号室にて臨時理事会が開催され、当日はオンライン参加も併行して行われました。総理事8名のうち理事5名のご出席により、過半数が認められたため、理事会が成立いたしました。

議題として「第1号議案 会長・副会長の選定について」が議論され、会長に斉藤環、副会長に井利由利が選任され、並行して斉藤環が代表理事、井利由利が業務執行理事として選任されました。

② 青少年健康センター第10回 定時総会開催

2023年6月24日(土)17時00分より 青少年健康センター三軒町ビル205号室にて定時総会を開催され、当日は会場・オンライン両面にて行われました。総社員数42名のうち、出席社員31名(委任状出席21名)により、過半数が認められたため、総会が成立いたしました。

当日議題として「第1号議案 2022年度事業報告及び決算の承認に関する件」「第2号議案 理事及び監事並びに参加の任期満了に伴う改選に関する件」が挙げられ書類を提示し、詳細な説明したところ、満場異議なく承認可決されました。また報告事項として「2024年度事業計画および収支予算に関する件」について報告が行われました。

③ 職員総会の開催

2023年10月14日(土) キャロットタワー 26Fにて、第6回職員総会が開催されました。総勢40名の役員・職員の皆様にご参加いただきました。本会では青少年健康センターの事業紹介・方針の発表などを職員一同で共有いたしました。

④ 新型コロナウイルス感染症対策

2023年度においては新型コロナウイルス感染症による自粛が解除され、各事業部の要望により、コロナ禍前の体制・イベント内容に戻ってまいりました。

⑤ 新規寄付者や会員開拓・定着化

2023年度は多くの方々に当法人の会員として入会いただく機会がありました。SNSでインフルエンサーからの紹介、またコラボによる寄付イベントもあり、多くの方に紹介いただける機会が多い年となりました。今後はこれらの支援者の方々に継続的に支えていただけるよう努めてまいります。

(2) 公益事業

2023年度の公益事業における全体の利用実績が15,910件(月平均1325.8件)となりました。2022年度が14,961件(月平均1246.8件)であり、全体での利用件数は増加となっております(年度比117.8%)。詳細は以下に記載いたします。

① ひきこもり・不登校に対する自立支援

i) 心理相談(茗荷谷クラブメンタル部門相談,※公1に該当)

総延相談件数7,995件(茗荷谷相談*:1,837件、世田谷相談:5,876件、電話:282件)となりました。2022年度が6,701件であり、心理相談事業の利用数は増加となりました(2022年度比119.3%)。事業ごとに比較したところ、全てにおいて相談件数が増加しております(2022年度茗荷谷相談1,612件 年度比113.9%、世田谷相談4,849件 年度比120.6%、電話2022年240件 年度比117.5%)。特に世田谷相談では2022年4月より、新たな施設となり、生活困窮者支援を運営する事業者と協働し世田谷ひきこもり相談「リンク」を開設しました。その結果、世田谷の相談のみで2年連続で1,000件近く増加となりました。全体的に見て、個別で対応する事業のニーズが高いという特徴はここ数年と同様と考えられます。

2016年度より受託した「国土舘高等学校および中学校の生徒カウンセリング業務に関する業務委託」では、年間75日訪問し、国土舘学校内の相談室を運営し相談業務を行いました。

8050世帯への対応が各自治体で展開され、関係機関との連携がすすみ、コロナ対策の緩和も相まり、引き続き委託事業における相談対応件数が増加した年になりました。

*文京区・台東区・千代田区委託事業も含む

ii) 居場所事業(茗荷谷クラブ,※公1に該当)

茗荷谷クラブおよび世田谷事業における居場所運営においては、4,471件(茗荷谷居場所:2,920件*、世田谷居場所:1,551件)となりました。2022年度は4,561件であり(年度比98.0%)年度で比較すると微減となりました。茗荷谷クラブ、世田谷のそれぞれの居場所活動の年度比較をみると、茗荷谷クラブ(2022年度2,619件、年度比111.5%)では増加、世田谷(2022年度1,942件、年度比79.8%)では減少となっています。茗荷谷クラブにおいては2023年度よりコロナウイルス感染症対策として自粛していた従来のイベント活動を再開しました。茗荷谷クラブではその影響もあつてか、利用件数が上昇しました。世田谷では居場所活動に新規に参加する方が少なく、全体の件数も減少となりました。相談件数が大きく増えていることからいかに居場所活動に繋げるかが課題となっております。

居場所活動には新規の見学・問合せも多くありましたが、参加利用料金が発生することから、利用まで至らないことが多々ありました。各地域での福祉サービスが充実しはじめていくことから、参加費用がかからないことが珍しくなくなってきたこともあり、事業を進めていく上で今後の課題にもなっています。

*文京区、台東区、千代田区委託事業も含む

iii) 社会参加支援事業(※公 2 に該当)

2023 年度の総件数は 1,808 件となり(2022 年度 2,016 件、年度比 89.7%)、2022 年度と比較すると減少となりました。中間的就労、職場体験、ジョブトレーニング等の職場を提供し、参加いただいたご利用者様の総延数は 1,499 件でした(2022 年度 1,641 件 年度比 91.3%)。また社会参加への準備を実施する「社会参加準備グループ」には延利用者数 130 件(2022 年度 142 件 年度比 91.5%)でした。件数では減少となっていますが、事業規模等は維持できており、大きな変化なく 1 年間事業を遂行できたものと思われます。クラブ以外の外部交流のきっかけを提供する「農業活動」「サッカークラブ活動」などは延 179 件(2022 年度 233 件 年度比 76.8%)となりました。これらの事業では、参加者数の減少が見られ、一部事業の規模の縮小を検討していますが、こちらの培ってきた地域の方々の関係性などは維持しながら進めていく予定です。

その一方で、地域内での社会貢献企業、ソーシャルファーム等理解のある企業を開拓し、可能な範囲で中間的就労の場を創出してきました。

② ひきこもり等生きづらさを抱える若者に関する知識の普及啓発を目的とする事業

i) 思春期カウンセリング講座(※公 3 に該当)

2023 年度の思春期カウンセリング講座の開催を中止いたしました。

ii) 「ひきこもりダイアログ」講座(※公 4 に該当)

会長である斎藤環氏を中心に原則月に一回行われております。2023 年度は計 10 回開催し、470 名の方のご参加がありました。2022 年度では 11 回開催、年間 519 名であり微減となりました(2022 年度比 90.6%)が、1 回あたりの平均で比較すると、2023 年度が 47 名、2022 年度が 47.2 名となり、1 回あたりの参加者は同程度と考えられます。2023 年度は全ての開催にて会場・オンラインを併行して実施して参り、このような開催方法が定着しつつあります。オンラインを継続することにより、地方の方々が参加可能となり、その結果新規の会員となることも多い年となりました。

また 2022 年度に助成金を得て作成した「斎藤環が応えるひきこもり家族からのよくある質問とその回答 FAQ118」は大変ご好評いただき、200 冊以上のご注文をいただきました。

以下に 2023 年度の開催一覧を掲載いたします。

講座名		会場・開催方法	日付
AM	PM		
理論編	対話ワーク	連合会館、Zoom	4月15日
理論編	対話ワーク	アカデミー茗台、Zoom	5月13日
理論編	対話ワーク	連合会館、Zoom	6月17日
理論編	対話ワーク	アカデミー茗台、Zoom	7月8日
理論編	対話ワーク	キャロットタワー、Zoom	10月14日
理論編	—	連合会館、Zoom	11月25日
理論編	対話ワーク	アカデミー茗台、Zoom	12月16日
理論編	対話ワーク	アカデミー茗台、Zoom	1月20日
理論編	対話ワーク	連合会館、Zoom	2月17日
理論編	—	アカデミー茗台、Zoom	3月16日

iii) 講演会・シンポジウム(※公4に該当)

2023年度に開催した講演会は以下の通りです。

講座名	開催方法	講師名	日付
青少年健康センターシンポジウム その『支援』、本当に必要ですか？	連合会館 Zoom	齋藤環氏(当センター会長) 勝山実氏 小川一平氏	11月26日
文京区 講演会 家族の「心理的絆」を再考する ～アタッチメント理論から紐解くひきこもり支援とは～	文京区民センター 3A 会議室	北島 歩美 (臨床心理士、公認心理師、家族心理士)	6月17日
文京区 講演会 ひきこもることを理解する ～当事者活動から見えてきたこと～	文京区民センター 3A 会議室	林 恭子氏 (ひきこもりUX会議 代表理事)	10月14日
文京区 講演会 思春期青年期のひきこもる人のメンタルヘルス ～ココロの悩み？それとも病気？～	文京区民センター 3A 会議室	内野 敬氏 (精神科医)	2月17日
台東区 講演会 「若者をまんやかにした場をつくる ～ユースワークとしての若者支援～	台東区役所 10階会議室	中塚 史行氏 (NPO法人教育サポートセンターNIRE代表)	5月27日
台東区 講演会 ひきこもり当事者との新しいつながりを考える ～COMOLYの取り組みについて～	台東区役所 10階会議室	山田 邦生氏 (株)Meta Anchor代表取締役)	11月15日
台東区 講演会 ひきこもりのご家族ができること	台東区役所 10階会議室	益田 裕介氏 (精神科医)	3月10日
千代田区 講演会 ひきこもり家族のライフプラン ～親亡き後の子の生活を考える～	かがやきプラザ4階	畠中 雅子氏 (当センター理事)	8月19日

2023年度では計8講座を開催し、計292名(1開催あたり36.5名)の方にご来場いただきました。2022年度では計6講座216名(1開催あたり36名)であり参加者は微増となりました。2023年度では4年ぶりに対面でのシンポジウムの開催し、オンラインも併行して開催を行いました。2023年度でも、文京区、台東区、千代田区の3区で連携しながら、相互で広報しつつ開催いたしました。各家庭の住まいに関係なく参加できるようになり、多くの方にご参加いただけるようになっていきます。以前から各講演会について幅広く広報活動をおこなったため、各区の参加者状況は安定して集客できるようになりました。

③ 電話相談絆(※公5に該当)

2023年度の総相談件数は874件となりました。2022年度が948件であり、相談件数は減少となりました(年度比92.2%)。2023年度においては、ほぼ出勤して電話相談の対応を行っており、在宅での相談は非常事態時に実施するようしております。天候不順など従来ではお休みするような場面もありましたが、1年通して予定通りに事業運営を行うことができました。運営体制や、人員の配置など課題も多いですが、今後も現在の事業規模を維持しつつ進めてまいります。

以上、2023年度事業報告をさせていただきました。新型コロナウイルス感染症の自粛等が本格的に解除され、従来の体制に戻した1年でした。居場所支援事業や講演会活動など、今までは集団活動や大人数が集まるような活動にはどのような変化があるか見守る1年でもありましたが、数字的には大きな変化はなく、以前と同様にカウンセリングなどの個別での事業が大きく増加するという結果となりました。各自治体においても地域のサービスとして無料の居場所活動や講演会活動を行っており、そのような影響もあるかと思われます。ただ、イベントを再開できたことでの参加者からの満足度は高く、継続利用を検討してくれる方も見られます。新規の問い合わせ等、行動を起こされる方も見られますので、継続をしていくことが大事であると思われます。まだ色々なものを再開して1年でもあり、今後も観察続けていく必要があると考えております。

また、コロナ禍で培った経験は講演会事業や電話相談絆事業に活かされており、講演会活動のオンラインの併用や電話相談の事業の在宅での対応は日常的なものとなりました。多様な開催方法を選択できるようになったことは我々にとっても大きな強みかと思われます。

今後とも多くの皆さまのご期待に添えられるよう、より安定した各公益事業の実施、より社会に求められる事業運営を行ってまいります。職員全体で力を合わせて社業に注力する所存です。どうぞなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上